



＝写真とともにプラン
・ジャパン提供

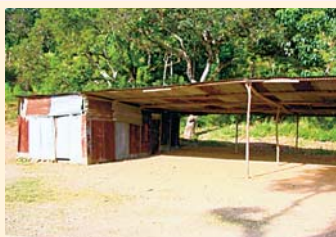


東ティモール

バリバール小学校

2004年のライブで支援

2002年にインドネシアから独立した新しい国で、アジアで最も貧しい国のひとつといわれています。支援する前の学校はさびたトタン屋根が、弱々しい木でかろうじて支えられているだけのものでした。雨が降ったり、風が強いときは勉強できないので、学校はお休みになっていました。



支援する前の学校

ドリーム・パワー・コンサートでは、どんな天気でも安心して勉強できるように安全な学校をプレゼントしました。校長先生は学校を建設するための資材がどんどん運ばれてくるのを見て、とても感動してしまったそうです。

ドリーム・パワー

Dream Power

ジョン・レノンスーパーライブ

世界の子どもたちに学校を贈ろう!

5

「夢の力」①

夢が世界を変える力に

世界の子どもが勉強できるように、学校を贈るチャリティー・コンサートができないだろうか。

そんな夢を持ったドリーム・パワー・コンサート総合プロデューサーの斉藤早苗さんは、ある人に提案します。故ジョン・レノンの夫人、オノ・ヨーコさんです。

ヨーコさんは、世界的に有名な日本人の芸術家です。ヨーコさんはジョンと出会う前から、たくさんノ国で芸術活動をしていました。ロンドンで展覧会を開いたときにジョンがやってきて、ふたりに出会いました。それからというもの、ふたりは特に世界の平和のために歌を作ったり、コンサートを開いたりしてきたのです。

そんなヨーコさんは、斉藤さんの提案をとても素晴らしいアイデアと共感しました。そして「ど

んな小さな夢でもひとりひとりが夢を持つこと。それが世界を変えていく力となる」というテーマを考えてくれました。

また、コンサートに「ドリーム・パワー」という名前も付けてくれました。英語で「ドリーム」は「夢」、パワーは「力」。ドリーム・パワーとは「夢の力」という意味です。「子どもたちの助けになりたい」という、コンサートに参加する人たちの夢がひとつになって、世界の子どもたちの夢を叶える力となる――。斉藤さんはびっくりだと感じました。

学校を贈るといふ夢、そしてジョンとヨーコさんのメッセージがひとつになって、いきいきと動き出した瞬間でした。

(ドリーム・パワー ジョン・レノン音楽祭事務局・浜田哲朗)